

ブドウ新品種 'ルビーロマン'

誌名	石川県農業総合研究センター研究報告 = Bulletin of the Ishikawa Agriculture Research Center
ISSN	13429701
著者名	嶋,雅康 田村,茂之 稲部,善博 野鼻,重典 高山,典雄
発行元	石川県農業総合研究センター
巻/号	27号
掲載ページ	p. 33-36
発行年月	2006年3月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



ブドウ新品種 ‘ルビーロマン’

嶋 雅康¹⁾・田村茂之¹⁾・稲部善博²⁾・野島重典³⁾・高山典雄⁴⁾

New Grape Cultivar ‘Ruby Roman’

Masayasu SHIMA, Shigeyuki TAMURA¹⁾, Yoshihiro INABE²⁾
Shigenori NOBATAKE³⁾, and Norio TAKAYAMA⁴⁾

Summary

1. ‘Ruby Roman’ is a new grape cultivar, which is a open-pollinated progeny of ‘Fujiminori’ fertilized in 1994. In March 2005, ‘Ruby Roman’ applied for the kind registration to the Ministry of Agriculture, Forestry, and Fisheries of Japan by the Seeds and Seedling Law.
2. The vine of ‘Ruby Roman’ is as vigorous as that of ‘Fujiminori’, ‘Aki Queen’. Development of the flower buds is well, the resistance to downy and powdery mildews and anthracnose is as medium as that of ‘Fujiminori’.
3. The clusters are winged-conical in shape. The berries are shortoval, weigh 20 to 23g on the average, and bright red in color at maturity. The separation of skin and fruit fresh is easy. The fresh is meaty and texture of taht is clumsily. The fresh is juicy and the Brix value of juice is about 20 with low acidity and is not astringent. Fruit has foxy flavor. The fruit skin is as thick as ‘Fujiminori’, and some berry cracking may be observed during the maturation time.
4. If it is grown under the plastic without sedefilm, ‘Ruby Roman’ ripens in late August to middle September at Kahoku.

I 緒言

石川県における 2004 年のブドウ栽培面積は 136ha で、その内 ‘デラウェア’ 等の小粒品種が占める割合が 73% と高く、‘巨峰’ 等の大粒品種の占める割合は 22% にすぎない。

しかし、全国的には大粒品種の無核栽培が主流になりつつあり、消費者は食べ易く、より高級感のある大粒なブドウへの嗜好を強めている。

本県では、食味の良い赤色の大粒品種として、鮮紅色に着色する大粒のブドウ ‘オリンピア’、黒色の大粒品種として ‘藤稔’ が有核栽培されてきたが、裂果性が著しいことから一部での普及にとどまった。また、食味に優れ、果皮色が鮮紅色で果房の外観に優れる ‘安芸クイーン’ も花振るい性が強く、本県のような比較的温暖な気象条件

下では着色も十分でないことから栽培面積が伸び悩んでいる。

このため、本県のブドウ栽培農家からは、品質的には優れるものの、栽培性に劣ることから、品質・栽培性ともに優れた赤色大粒品種の育成が強く求められてきた。

‘ルビーロマン’ は赤色品種であり、結実性、果房の外観が良く、食味も優れている。都市化や担い手の高齢化により、本県のブドウ栽培面積が減少傾向にあるなかで本品種は産地の活性化や生産農家の経営安定に寄与するとともに、大粒系品種への生産意欲を向上させる上で、早急な普及が期待される新品種である。

本品種の育成に当たり、多大のご協力を頂いた当センター砂丘地農業試験場の職員、特に母本と

2006年3月27日受理

1) 農林水産部農畜産課

2) 元農業総合研究センター砂丘地試験場 (故人)

3) 奥能登農林総合事務所

4) 珠洲農林事務所

交雑実生の管理に尽力されたほ場管理職員並びに関係各位に心から謝意を表す。

II 育成経過

砂丘地農業試験場では、1995年に‘藤稔’の自然交雑種子約400粒を播種し、得られた40個体の実生苗を1996年にほ場に定植し、選抜試験を開始した。

‘ルビーロマン’は1997年に初結実し、果皮色が赤色で食味が有望と判断したことから2002年にテレキ5BB台に接ぎ木した。

2003年にこの個体に系統名‘ブドウ石川1号’を付与し、果実品質の継続調査と形態の特性調査を2003年および2004年に行った。

その結果、果皮色が鮮やかな赤の超大粒ブドウで、食味が良く食べ易く、実用化の可能性が高いと認められたことから、‘ルビーロマン’と命名し、2005年3月に種苗法に基づく品種登録の出願申請を行った。

III ‘ルビーロマン’の特性

1. 形態的特性

「種苗特性分類調査報告書(山梨県、1922年)」の評価基準にしたがい、砂丘地農業試験場における形態的特性を評価した。

原木の樹勢は弱いものの、接ぎ木樹では強く、新梢の伸びは‘藤稔’‘安芸クイーン’並に旺盛である(第1表)。熟梢の径は太く、色は暗褐色で、綿毛の密度は粗で、表面の形状は細溝があり、巻きひげの着生数は2個である。

葉の大きさは‘藤稔’並に大きく、葉形は五角形の5片葉で、葉柄裂刻は広く開き、上裂刻に重なる。成葉の上面は暗緑色で、下面は暗黄緑色、下面の綿毛の密度は‘藤稔’‘安芸クイーン’と同じく極粗である。

葉柄の色は‘藤稔’と同様、淡紅である。熟梢の色は暗褐色で、登熟は良い。

花芽の着生は良好で、1新梢当たり1.7花穂を着ける。花穂は有岐円錐(写真1)で、‘藤稔’並であり、花は両性花で、花粉の多少は中である。



写真1 ‘ルビーロマン’の花穂の形態

2. 栽培的特性

育成系統適応性検定試験・特性検定試験調査方法(農林水産省果樹試験場、1994)評価基準にしたがって、砂丘地農業試験場において有核栽培した樹における果実特性を調査した。

自然状態での果房は有岐円錐形で、開花前に花穂の整形を行うことにより、400~500g前後の円錐形の果房が得られる(写真2)。花振るい性は中位であるが、着粒密度は‘藤稔’や‘安芸クイーン’より密である(第2表)。



写真2 ‘ルビーロマン’の果房の形

第1表 ‘ルビーロマン’及び対照品種の樹性(2004)

品 種	樹 齢	台 木	樹 勢	樹の拡がり	熟梢の太さ	新梢の長さ
ルビーロマン	3	5BB	強	大	太い	長
安芸クイーン	3	5BB	強	大	太い	長
藤 稔	15	5BB	強	大	太い	長

第2表 雨よけ施設栽培での‘ルビーロマン’及び対照品種の有核果実の外観(2003~2004)

品 種	花振る い性	果房の形	果房長 (cm)	果房重 (g)	着粒の 粗密	果粒の形	1粒重	果皮色
ルビーロマン	中	有岐円錐	14.5	456	密	短楕円	21.6	赤
安芸クイーン	多	有岐円錐	13.3	343	粗	倒卵	13.5	赤
藤 稔	中	有岐円錐	14.2	393	中	倒卵	14.8	紫黒

第3表 雨よけ施設栽培での‘ルビーロマン’及び対照品種の有核果実の品質(2003~2004)

品 種	はく皮 の難易	肉質	屈折計示度 (%)	酸含量 (g/100ml)	香気	渋み	食味	裂果性	収穫期
ルビーロマン	易	塊状	19.8	0.43	フォクシー	なし	上	中	8/下~9/中
安芸クイーン	中	中間	20.2	0.51	フォクシー	なし	上	少	8/下~9/上
藤 稔	中	塊状	18.6	0.54	フォクシー	なし	上	多	8/下~9/上

果形は短楕円形で、平均果粒重は 21.6 g と極めて大きく、‘藤稔’や‘安芸クイーン’の約 1.5 倍であった。果皮色は鮮やかな赤色で、果粉は少ない。はく皮は容易で、果肉の特性は塊状で軟らかい(第3表)。果肉の色は白色で、果汁の甘みは強く、屈折計示度は 20%前後で、‘藤稔’よりも高い。酸含量は 0.4g/100ml と低く、フォクシー香があり、渋味はない。

果皮の厚さは中程度で、裂果性は認められるが、‘藤稔’よりは少ない。裂果は果粒肥大の第Ⅱ期後半から第Ⅲ期前半にかけて発生する。裂果のタイプは果頂裂果である。常温での果実の日持ち性は‘藤稔’並である。

3. 栽培上の留意点

本品種の育成地における雨よけ施設栽培での開花始めは5月下旬で、収穫時期は‘藤稔’や‘安芸クイーン’とほぼ同時期の8月下旬から9月中旬である。また、密閉施設栽培することによって8月の旧盆前後の収穫が可能である。

また、花振るい性は中程度で開花直前の花穂は長く、そのままでは有核粒と無核粒の混在する密着房となるため、開花前までに‘巨峰’並の花穂整形を実施する。

着果数は、目標にする果房や果粒の大きさによって加減する。1果房重 400~500g で、10a 当たり収量目標 1,200kg を確保するには、開花前の花穂の数を 5,000~6,000 とすれば十分である。

摘粒時には1果房当たりの粒数を 20~25 粒程度になるように行い、1房のなかでも有核果粒の大きさにバラツキがみられるため、摘粒によって粒揃いをよくする。

成熟期において降雨が続くと年によってハウス内であっても裂果の発生がみられるので土壌水分管理や換気作業に留意する必要がある。

IV 摘 要

1. ‘ルビーロマン’は 1994 年に‘藤稔’の自然交雑実生で 2005 年 3 月に種苗法による品種登録の出願申請を行った。
2. 樹勢は強く、‘藤稔’‘安芸クイーン’並みである。花芽の着生は良好で花振るい性は中位で‘藤稔’と同程度である。病害虫の抵抗性は中位で‘藤稔’と同程度である。
3. 果房は有岐円錐形で、果粒は短楕円形で 20~23g である。
果皮色は鮮やかな赤色で果粉は少ないが外観は優れている。はく皮が容易である。
果肉の特性は塊状で軟らかい。果肉の色は白色で甘味は強く酸味が少ない。
食感での渋みは無く、果汁が多く、香りはフォクシー香がある。果皮の厚さは中であるが、裂果性は年次によって多少みられる。
4. 成熟期は育成地における雨よけ施設栽培では 8 月下旬から 9 月中旬である。

V 引用文献

- 1) 山根弘康・栗原昭夫・山田昌彦・永田賢嗣・吉永勝一・松本亮司・岸光夫・小澤俊治・角利昭・平林利郎・角谷真奈美・佐藤明彦(1992)ブドウ新品種‘安芸クィーン’．果樹試報 22, 1-11
- 2) 高橋国昭・山本孝司・今岡昭・安田雄治・宮川煦(1996)ブドウ新品種‘出雲クィーン’．島根農試研報 30:175-181
- 3) 山梨県果樹試験場(1992)．種苗特性分類調査報告書(ぶどう)
- 4) 平成15年度果樹成績書．石川県農業総合研究センター砂丘地農業試験場
- 5) 平成16年度果樹成績書．石川県農業総合研究センター砂丘地農業試験場